

# ホームページを利用した 進路支援室のキャリア支援ツールについて

## Supportive tool for career education using homepage

宮野 智行<sup>1)</sup>

Tomoyuki MIYANO

**Abstract:** The career center web site was opened at this campus from fiscal 2012. In the homepage, the latest information for job offer is distributed timely. The job offer information on a past year and the sufficient information of the data base classified by course, a senior and the teacher specializing in a course can be searched and used. The composition and the contents of the career center homepage are shown in this paper. The method of work breakdown structure (WBS) was used as the technique of the business improvement of the career center office. At first, the whole work of career center office is classified for every work contents. And it divides by attaching a work number to each business. It becomes manageable a schedule, a resource, cost, and a risk by creating a work schedule including a person in charge etc. A person in charge performs middle products with responsibility toward the final target of success. By making WBS into a work schedule, the omission of business and duplication are lost and misapprehension of the job description between persons in charge, a deadline, etc. can be prevented.

**Keyword** career education, supportive tool, homepage

### 1. まえがき

東京都立産業技術高等専門学校荒川キャンパスにおける就職斡旋は4年生の3月から開始され、学校推薦の選考を経て、順次希望する企業にエントリーして選考を受ける。夏休み前には8割の学生が内定を取得し、遅くとも12月末までには100%の学生が卒業後の就職先を決定する。リーマンショック以降、求人社数および求人数が減少し、就職氷河期と言われ大学生の就職難がマスコミを騒がす中、高専卒業者は安定した就職先を確保していたと言える。

平成25年度は、東京都立産業技術高等専門学校ものづくり工学科として第4期卒業生となる280名が卒業した。荒川キャンパスからは141名(情報通信工学コース34名、ロボット工学コース34名、航空宇宙工学コース32名、医療福祉工学コース41名)であった。また、東京都立産業技術高等専門学校専攻科創造工学専攻では、第7期28名が修了し、機械工学コース17名、電気電子工学コース7名、情報工学コース3名、

航空宇宙工学コース1名であった。

就職活動状況としては、経済環境の面では安倍政権発足後の経済政策の期待感により、また東日本大震災からの復興需要が本格化してきたことにより、求人状況には好転の兆しが見られてきました。このことは就職活動を行う学生にとって有利に作用しました。そのような社会状況の中、本校としては例年通り企業への求人票の発送を11月に行い、就職に関する多くの情報を入手次第、公開することによって、学生が早期の採用試験にも応募できるように対応している。荒川キャンパスでは1月中旬には学生の斡旋希望調査を実施し、4年の学年末試験終了後には支援室での相談や情報提供に依拠している。近年の卒業生数/就職/進学者数を表1.1に示す。

平成24～25年度に進路支援の室運営として、ホームページを利用した学生のキャリア支援ツールの開発を行ったので、本稿ではこのツールを含む荒川キャンパスのキャリア支援について報告する。

1)東京都立産業技術高等専門学校 ものづくり工学科

表1.1 就職／進学者数(荒川キャンパス)

	22年度	23年度	24年度	25年度
卒業生数	144	124	140	141
就職人数	75	75	89	80
進学者数	47	33	33	40

キャリア支援ツールのポイントとしては、これまで紙ベースで進路支援室内に保存されてきた情報を電子化し、ホームページを利用した形式で学生に提供することにより、学内 LAN に接続された PC から、学生がいつでも自由に閲覧できるように配慮した。2節においてキャリア支援ツールについて述べた後、3節以降でその他の室運営の業務改善についても述べる。

## 2. キャリア支援ツール<sup>[1]</sup>

進路支援室のキャリア支援ツールとして学内専用ホームページを開設した。ホームページでは進路に関する最新情報をタイムリーに配信することはもとより、過年度の進路情報やコース別就職実績、先輩・コース担当教員の情報が検索、利用できるように配慮した。以下に、平成 24 年度から運用を開始したキャリア支援ツールの構成とその内容を示す。なおトップページには、最新情報として求人票、選考会対象企業、企業の採用状況(募集開始・終了、説明会・会社見学等)をほぼ毎日更新している。

### 2.1 年間計画

このページでは、進路支援の年間計画を示し、学生が一年を通して行う就職活動を確認でき、他の学業計画と合わせて就職活動が計画的に行えるように配慮した。本校では9割の学生が学校推薦で就職する。自己分析、企業研究を行った後、自分の将来の職業とする職種・企業を絞り込み、進路担当教員との面談を行い校内選考を経て、応募先を決定する。

年間計画のページでは3、4年次において受講するキャリア講座のスケジュールについても掲載している。3年次が受講する講座は、「進路を考える」、「語り場」、「高専女子キャリア&ライフ」があり、夏期および後期に開催される。3年次ではまだ進学か就職を決めていない学生も多く、自分の将来像を描き、そのために今何をしなければならないかを教員や友人も含めて、深く考える機会を提供している。4年次では「社会人マナー」「進路ガイダンス」「専門性」「自己分析」「エントリーシート」「面接対策」等が月1回程度開催される。夏期休業中に参加するインターンシップも終え、4年次後半になると、具体的な進路が定まり、キャリア支援も「エントリーシートの書き方」や「面接対策」等、就職試験に即した内容となる。各講座で使用した資料はホームページからダウンロードできる。このため2～3年次の低学年の学生も閲覧することが可能となる。4年次に参加

するインターンシップに関する情報は専用のホームページを開設している<sup>[2]</sup>。

5年次になると、企業の採用スケジュールに合わせて、順次校内選考を行い希望する企業に応募する。学校推薦の場合、企業担当者との連絡は進路支援担当者が行う。その際、進路指導教員、卒業研究担当者や専門コースの教員、および、首都大学東京のキャリア支援センターのサポートを受け、進路についてのカウンセリングや面接練習を必要に応じて適宜行っている。

## 年間スケジュール, 室業務

	月	学生	進路支援室業務
参加前	10～	・4年次キャリア支援講座受講 ・自己分析 ・企業探索(企業探索ツール)	・キャリア支援講座開催 ・求人依頼発送
	1	・進路希望調査	・求人票受付 ・企業訪問対応
	1～3	・各種セミナー参加 ・会社説明会参加 ・会社・工場見学	・校内説明会開催
就職活動	4～	・カウンセリング ・応募、試験 ・受験報告 ・内定	・受験・面接指導 ・校内選考 ・受験対応
内定	10	・内定式	

図 2.1 進路支援室の年間スケジュール

### 2.2 校内選考プロセス

校内選考プロセスについては、学生から校内選考方法がわかりにくいというコメントがあり、平成 24 年度からホームページで公開している。これは校内選考会を3月中旬から順次実施しているが、その時点で企業からの求人票が出揃っているわけではなく、選考時期が発表されている企業とそうでない企業があり、学生の対応やその後の手続きの順序が変わるため、それらを明確にするためフローチャートを用いて、校内選考から応募企業決定までのプロセスがわかるように配慮した。このページは企業の新卒採用の選考プロセスのホームページを参考にして作成した。

### 2.3 様式のダウンロード

進路支援室では、4年次の2月に就職希望の学生を対象に就職活動の内容を「就職の手引き」にまとめて、説明会で配布している。ホームページでは、この手引きをはじめとして、説明会資料、事務手続き、報告書で必要になる各種様式をホームページからダウンロードできるようにしている。

- ・ 就職の手引き
- ・ 書類提出手続き
- ・ 就職説明会資料
- ・ 事務手続きの流れ
- ・ 面接対策講座、同資料

・ 過去の試験問題

また、業種コードや日本標準産業分類表も参照可能である。

2.4 近年の傾向

平成 22～25 年度の進路状況報告書を掲示している。進路状況報告書には、本科、専攻科生の進路状況、求人社数、就職内定社数と業種、企業規模、企業名等が記載されている。

求人社数は平成 18～20 年度まで 650 社程度であったが、平成 21 年のリーマンショックの後平成 24 年まで 450 社程度まで落ち込んだが、平成 25 年度から増加傾向になり平成 26 年度では 650 社を超えている。また、年度毎の産業別就職者数とその割合をグラフ化して掲載している。

2.5 企業探索ツール

ホームページからダウンロードできる企業探索ツールの概略図を図 2.2 に示す。

**企業探索ツール**

ひとりで探索可能  
資料の有無が一目でわかる

企業名	求人票			募集内容				資料の有無			報告書			
	22	21	20	機 械	電 機	情 報	医 療	22	21	20	T	R	A	W
企業1	1	1	1	1	1			1			1			
企業2		1	1		1		1			1				1
企業3						1	1		1					
区紹介1	1	1	1	1				1			1			
大学1	1		1	1	1	1		1	1	1			1	
研究所1	1	1	1		1	1					1			

企業HPIにリンク  
過去の受入回答  
先登の報告書にリンク

図 2.2 企業探索ツール

企業探索ツールでは過去 12 年間に求人票を頂いた企業が掲載され、それぞれ年度毎の求人の有無、募集のある系(電気系、機械系、情報系、医療系)、業務内容、募集職種、資料、勤務地、受験者の有無、報告書等の情報が得られる。企業名がホームページにリンクしているので、より詳細で最新の情報にアクセスできる。OB/OG の受験情報は報告書にリンクしている。報告書には、受験日、試験項目・内容、面接の形態・質問内容、感想、後輩へのアドバイス等があり、受験時の有力な情報となる。求人資料の DVD は資料室の DVD コーナーに置かれるが、資料室にあることをホームページに掲示している。(現在 32 社分)。学校推薦であってもリクナビ、マイナビに登録してから選考手続きが進められる企業もあり、これら民間の就職ナビへのリンクへのリンクも設定している。

公務員は、国家公務員、地方公務員の資料が就職支援室に送られてくるが、年度毎に募集母体が異なるので、平成 24～26 年度の 3 年分の資料の有無を掲載した。資料は担当教員に申し出れば閲覧できる。地方公共団体では、1 都 6 県の他、東北地方や近畿地方からの募集要項も送付されてくる。

その中には自治体独自の就職ナビの情報も含まれているため、併せて掲示し、ウェブサイトへのリンクを設定している。自衛隊については、一般曹候補生、陸・海・空自衛官候補生、航空学生学生の募集がある。特に航空学生については宇宙工学コースの学生が毎年数名受験している。

女子学生については過去 10 年分の女性の就職先を掲載している。これは高等専門学校から推薦を受ける技術系専門職の場合、女性の少ない職場や、夜勤、シフト勤務といった労働条件や職場環境の点で女子学生にとって働きやすい環境であることが重要である。OG と連絡を取り、応募前に社内の雰囲気を知ることができれば、ミスマッチによる離職や転職を防ぐことに役立つ。

2.6 受験報告書

実際に企業に応募し、受験した学生が、工場見学、テストセンター受験、一次試験、二次試験、最終面接等、試験毎に報告書を提出して頂き、次年度受験する学生に情報提供を行うようにしている。今回のホームページの利用では、この受験報告書を PDF 化し、ホームページから閲覧可能とした。現時点では、総計 206 社、1063 件の過去 12 年分(平成 14～26 年度)の受験報告書が閲覧できるようになっている。

工場見学は単なる見学ではなく、選考試験を兼ねている企業も多い。約半日ほど人事担当者と工場内を少人数で見学するため、その間、人事担当者は受験者を良く観察し、適宜質問を行い、受験者の志望動機やコミュニケーション能力の確認を行う。見学のスケジュールや見学内容、見学の過程で質問された内容などが詳細に記録してあるため、次年度の受験者は見学前にその内容を事前に知ることができる。

テストセンターで行われる試験は全く同じ試験が行われるわけではなく、業種、希望職種、受験レベルによって、設問内容の詳細が異なる。

一次の内容は、基礎知識、適正検査、工業系の専門等企業毎にその内容が異なる。基礎知識や専門科目で合格点を取っていても、適正検査の結果のみで不通可となる場合もあるので、前年度の受験内容の事前確認は必須となる。

面接試験では、当日のスケジュールや、グループディスカッション、グループ面接、個人面接等の面接の種別、面接室の配置や面接官の人数、面接時間、質問内容等が詳細に記録されている。次年度の受験者はその形態をあらかじめ知ることができるため、落ち着いて本来の自分の力を発揮し、自己紹介、志望動機を述べ、入社意思や自己アピールを行うことができるようになる。

2.7 エントリーシート

エントリーシートは就職活動の最初の関門となる。このシートを記入することができなければ、希望の企業に応募することができない。自由応募の大手企業の場合は応募者の 9 割がエン

トリーシートと筆記試験で不通可となるとさえ言われている。本校における就職斡旋の場合、エントリーシートの提出が求められる企業は、学校宛に送付される求人資料に同封されていることが多い。そのためエントリーシートを PDF 化し、ホームページから閲覧可能とした。現時点では、総計 72 社の過去 4 年分（平成 23～26 年度）のエントリーシートが閲覧できるようになっている。エントリーシートの様式は企業毎に異なるが、年度毎に大きく変わる企業は少なく、準備としては前年度の様式でも十分である。また記入内容に変更点があれば、その企業の注目する事項の推移も知ることができる。希望する企業が決まっている学生は、当該年度の応募書類が届く前に、前年度までのエントリーシートを利用して準備することが可能となる。

本校の校内選考プロセスでは、就職担当教員に推薦を希望する企業を連絡し、校内選考を通過した後で応募書類を作成することになっているが、校内選考通過から応募書類の郵送まで一週間程度しか期間がないため、希望する企業によってはエントリーシートの項目により、校内選考の前にエントリーシートの下書きを求める場合がある。これはエントリーシートのポイントとして、具体的なエピソードを記入することにより、主張に説得力を持たせ、他の応募者との差別化を図る必要があるのだが、具体的なエピソードがなければ記入することができず、応募を断念せざるを得ない場合があるからである。従って、就職活動時期以前から万全の準備することが重要となる。

## 2.8 推薦図書

荒川キャンパス図書館の進路コーナには 377 冊の蔵書がある。このうち進路支援担当の教員が 105 冊をピックアップし、SPI(29)、面接(14)、就活(24)、一般常識(7)、他に分類し、解説と共にホームページに記載されている。各書籍には、書名、著者名、請求記号、ラベル番号を併記している。また、google books にもリンクしており、外部ユーザのレビューも参照できる。

## 2.9 FAQ、先輩の声、アンケート結果

担当教員が学生からよく受ける質問を FAQ として記載した。例えば、「公欠」、「特定派遣」等学生が進路を決める際に、アンケート結果、先輩の感想、アドバイスを参考にする。進路支援室では、過年度の卒業生のアンケートを集計し、「進路の検討時期」、「受験社数、時期」、「就職活動で役立つ情報」、「マイナビ、リクナビ等情報サイトの利用」、をピックアップし、大学・研究所、実習内容別に先輩の声として、学生に公開するようになった。

## 3. 進学支援ホームページ

進学支援についても学内ホームページを作成し、平成 24 年度から運用しているため、これについて報告する。平成 25 年度は荒川キャンパス第4期生となる卒業生 141 名のうち、大学

編入学者は 40 名（昨年度 33 名）、専攻科入学者は 9 名（昨年度 10 名）であった。産業技術高等専門学校全体では、延べ 137 名が大学編入および専攻科などへの合格している。国公立大学および私立大学へも進学しており、良好な進学状況と言える。

進学支援のホームページでは、過年度の編入学先、大学ホームページ・大学研究室へのリンク、過去問題・募集要項へのリンク先等の情報が記載されている。

推薦図書としては、就職と同様に進学担当教員が推薦する編入学に関する書籍 16 冊を掲載し、請求記号、ラベル番号を併記している。荒川キャンパスの場合、コースに情報・ロボット・航空宇宙・医療福祉の特色を持たせているため 1 年次から 2 年次のコース分けの際も大変参考となる。

進路支援室では、推薦入学を受験する際、志望理由書、誓約書、申請書、報告書の提出を求めている。これら下記の各種様式についてはホームページからダウンロードできるようにしている。

- ・ 募集要項
- ・ 誓約書、申請書および受験校リスト
- ・ 事務手続きの流れ
- ・ 面接対策講座、同資料
- ・ 報告書

これにより、学生と教員間のデータの受け渡しに USB メモリを使用する必要がなくなり、情報の漏洩やウイルス対策を行うことができるようになった。

## 4. 室運営の業務改善

就職支援室の年間業務は、推薦が開始される 4 年次 3 月から始まることと、企業の採用スケジュールに合わせる必要があるため、例年ほぼ同時期に行われる。今回、就職支援室の業務改善の手法として用いた WBS はプロジェクト管理の計画段階において必須の管理ツールとされている。はじめに就職支援室の業務全体 (work) を業務内容ごとに分類し (breakdown)、各業務に仕事番号を付けて階層化 (structure) を行う。このように作成した分類から実施時期・期間、担当者等を含めた工程表を作成することにより、スケジュール、リソース、コスト、リスクの管理が可能となる。進路支援成功という最終的な目標に向かって、企業対応、キャリア支援、受験指導、ホームページ運用等を各担当者が責任をもって実行する。WBS を工程表とすることで、業務の抜けや重複がなくなり、担当者間の業務分掌、メー切等の思い違いを防ぐことができる。

WBS の実施例を図 4.1 に示す。業務内容、担当者、実施時期が一覧表となり、全ての室業務に仕事番号が割り当てられている。本年度は、外部機関キャリア支援講座が追加された。

## WBSの例

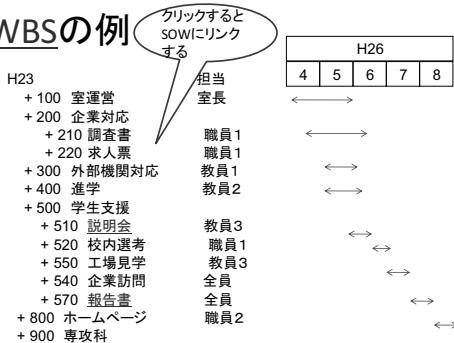


図 4.1 WBS の例

## 5. 文書ファイル、電子データ、eメールの管理

進路支援室内の文書管理、電子データ管理、eメール管理を行った。管理手法としては、室内データをWBS番号で管理することとした。図5.1に示すように、室PCフォルダは年度とWBS番号でフォルダリングされ、各室員が作成した電子ファイルは、該当するWBS番号のフォルダに保存される。これにより、別の担当者の電子ファイルへのアクセスが容易になった。また、文書、eメールの管理も同様とした。

### 電子ファイルの管理

#### ★電子メールの管理

メールのフォルダをWBSの通りとした。

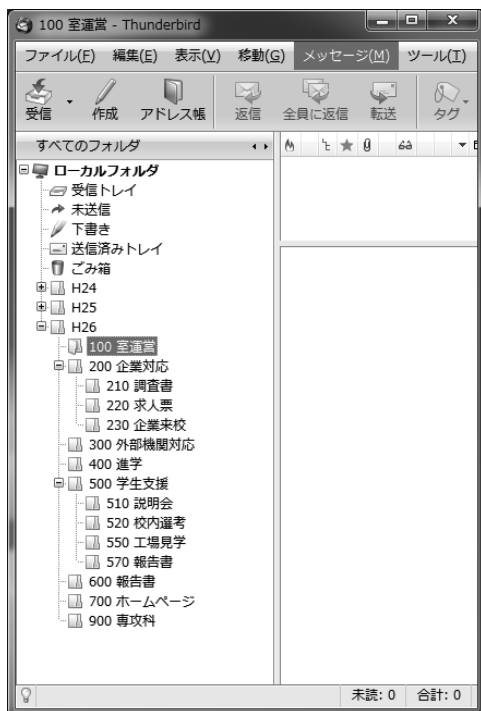


図 5.1(a) 電子ファイル

### ★電子データの管理

室内PCのフォルダをWBSの通りとした。

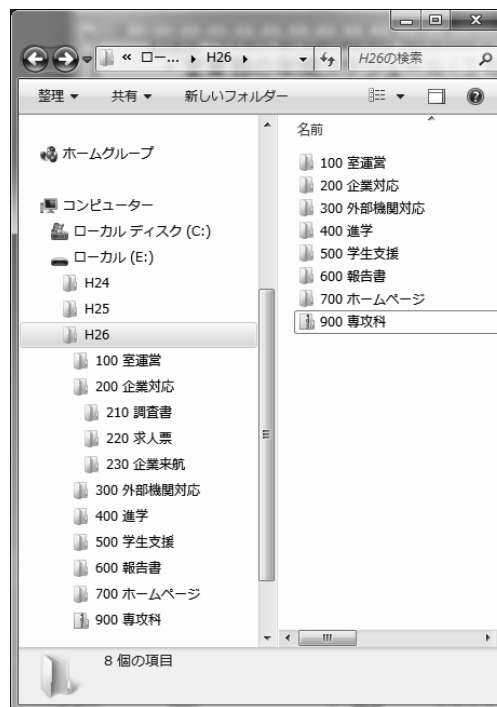


図 5.1(b) eメールの管理

eメールについては室内のPCにeメールを残すために、室ID (career)を取得した。このため室ID (career@)からeメールが送信できるようになった。career@で受信したeメールは、室のメーリングリスト(ml-career@)に自動転送され、メーリングリストに登録されている各室員のIDにeメールが配信される。これにより室内のPCにeメールの送受信記録が残り、室PCで受信メールを読み込み、サーバのメールを削除しても、室員にeメールが配信され、読み落とすことがないようになる。またeメールの記録は次年度以降の室運営の参考となる。図5.2に室メールの送受信関係図を示す。

## 電子メール

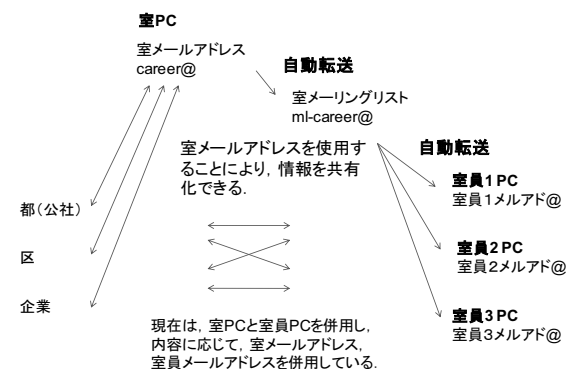


図 5.2 進路支援室のeメール配信

## 6 今後の課題

ホームページの運用としては、現在は学内専用として運用されているが、首都大学東京のホームページのように学内専用ページとして、在学生にIDとpasswordを発行して、自宅等の学外からもアクセスできるようにして行きたい。また、学生の利用アンケートをとり、学生の声を反映させ、一層使いやすく役立つ進路支援ツールに改善していく。将来的にはコース別ホームページと合わせて、キャリア教育へ発展させることが可能となる。その方法としては、第1段階として、進路支援、就職支援、進学支援のホームページから各室の情報にアクセスすることができるようにする。第2段階として、各室のホームページの中に、コース別の情報を集約する。第3段階として、第2段階までの資料、データに、各コースのキャリア教育の情報を付加して、コース別のキャリア教育のホームページを開設する。このようなホームページを開設、運営して行くことにより、当該学年の学生のみならず、低学年から将来に対するイメージ作りを助け、進路決定に役立てるようにしていきたい。

また、進路支援室の業務改善を行ったが、まだ改善を行わなければならない課題は多く残っている。その中でも、WBSについては、平成26年度から進路支援各室がキャリアセンターに統合されたように、年度毎の作業項目の見直しが必要となる。SOWについては、平成25年度までに完成されたとは言えず、今後も詳細に作業内容を加筆修正し精度を向上させて行く必要がある。WBSとSOWの精度を一層向上させ、室業務全体の可視化と一元管理を進める。

## 7. むすび

平成24年度より進路支援室の進路支援ツールとして学内専用ホームページを作成し、運用を開始した。ホームページでは企業の最新情報をタイムリーに配信することはもとより、過年度の進路情報やコース別進路実績、先輩・コース担当教員からの情報が検索、利用できるように配慮した。また、その他に行った進路支援室の業務改善についてもまとめた。改善の手法として、WBS、SOWの手法を導入した。今後、本ホームページに関する学生、担当教員、関係各位の意見を反映し、より学生のためになる進路支援ツールの提供及び室運営の改善を行っていく。

## 文 献

- [1] <http://career.acp.metro-cit.ac.jp/job.html>  
荒川キャンパス 進路支援室ホームページ、学内専用。
- [2] <http://internship.acp.metro-cit.ac.jp/internship.html>  
荒川キャンパス インターンシップ室ホームページ、学内専用。
- [3] “平成25年度 進路支援報告書”，東京都立産業技術高等専門学校 2013。
- [4] 宮野，高野，鈴木，杉本，“近年の荒川キャンパスの進路支援実施状況”，東京都立産業技術高等専門学校 平成22年度紀要。

## キャリア教育への発展

- Step ① インターンシップ、就職、進学の室ホームページを作成する。  
Step ② 各室のホームページに、各コース特有の情報を集約、蓄積する。  
Step ③ 各コースのキャリア教育のホームページを作成し、コース特有のホームページを参照し学生のキャリア教育に役立てる。

	インターンシップ室 HP	就職支援室 HP	進学支援室 HP
室ホームページ	運用中 Step①	Step①	Step①
情報通信コースHP		各コースのHPを作成し、 コース特有の情報を集約、 蓄積することにより、 各コースのキャリア教育 に役立てる。 Step③	
ロボットコースHP			
航空宇宙コース HP Step③	試行中 Step②	Step②	Step②
医療福祉コースHP	試行中 Step②		

図 6.1 キャリア教育への発展